

ウッディチキン／東京例会

『例会レポート 127』

日 程	2017年10月11日(水)
会 場	『株式会社ナンバーズリー東京』 〒150-000 東京都渋谷区神宮前 5-17-7 神宮前トーラス 3F
参加者数	約 110 名 (内県外 65 名)
講演会内容	PM19:00～20:50 ・ウッディチキン東京代表 プリング代表 大野さん挨拶 ・ウッディチキン伊藤豊代表の話 講演 「女性のキャリアの作り方」 ヒラタワークス 代表取締役 平田静子 様
親睦会	PM21:00～



ウッディチキン事務局

文章・写真提供／向井 健介

<http://woodychicken.com>

info@woodychicken.com

今年は異常な暑さの東京に 110 名の仲間が集まりました！
何回来ても、東西南北がわからない関東平野・・・
来るたび新しいものができており景色が違います！



いつもレポート読んでいただきありがとうございます。
「読んでるよ～」の一言で俄然やる気が上がります。

① 伊藤代表の挨拶

・熊本地震について

各お店の店頭で募金箱を設置し 210 万円集まった。

3 月に熊本に久保さんと北田さんの 3 名で行ってきた。昨年の 9 月に引き続き、これまでに集まっていた 210 万円を 7 名の方(お店やサロンが倒壊している方たち)に 30 万円ずつ寄付した。今月で 1 年以上経過したがまだまだ復興には時間がかかるのが現状です。今後も引き続き募金活動をしていく。

・フィリピンボランティアについて

2016 年 11 月に絆サロンができた。どんどん設備がよくなっている。

前回京都大学から教授の方が同行した。目的は、これまで国境なき医師団やいろんなボランティアの方とアエタ族のところにやってきたが、笑顔にするのに 2 週間かかっていた。

それを 2 時間で笑顔にするウツディチキンを見てみたいという動機で。。

改めてビューティーの力を感じた。

次回は、11 月行きます。最大 30 名の参加です。1 サロンにつき 2 名まで。興味がある方は参加してください。

とにかく、アエタ族のブライダルプロジェクトは 10 年続ける。

フィリピンで 1 番素敵なブライダルにする！



② 堀口マモルさん(フォトグラファー)

スマイリングベイビーについて

約 1,000 円あれば、安全な出産が可能なフィリピン。しかし「出産で多くの母子が、命を落としています」と貧しい母子のためのクリニックを現地で開く日本人助産師・富田江里子さんの活動の写真を撮影することで世界に大きくアピールして支援金を支援金を集めて多くの赤ちゃんの命を救う目的です。

別紙にて詳細記入しています。(クラウドファンディング)

③ 白血病のドナー体験をした高村さんの報告

先日、骨髄バンクでドナー提供をした高村さんがお話しいただきました。

きっかけは、6年前にすたっふが白血病になったのがきっかけでドナー登録をしました。

そして、昨年のこの東京例会で骨髄バンクを立ち上げた大谷貴子さんのお話を聞いて、心動かされて2か月後の12月にドナー提供のお話が来ました。。つながりがすごいと思った。

そして半年間色んな検査をしました。

手術の1週間前ぐらいから、自分の体をこれまで大切に感じたことは今までなかった。

車の運転、風邪をひかないように、階段でつまづかないようになど・・・

前日は、緊張と恐怖感があって眠れなかったがウツディの皆さんやスタッフからたくさんのメッセージを頂き気を紛らわせることができました。本当にありがとうございました。

そして手術が終わって、麻酔が切れて目を覚ました時に

「ちゃんと取れましたか？」「ちゃんと届きましたか？」をまず最初に聞いて、役割を果たせてほっとした。

感じたことは、

・普通にできることが本当にありがたいと感じます。

仕事ができる・おいしいご飯を食べる・お風呂にはいれる・布団で寝れる・仲間がいるなど

・スタッフが白血病になってなかったら、ここにいないと思う。すべてがつながって、今回の患者さんが助かっているんだと確信します。

・痛くないんです！ いろんな方からお話を聞いていましたが、全然痛くないんです。皆さん安心してください。

今ドナー提供は、30代40代が多くてそれらは55才で提供ストップします。若いドナーを探しています。

最後に、経験に感謝しています。人生観が変わりました！ありがとうございました。



④ 講演「女性のキャリアのつくり方」

講師 平田静子さん

プロフィール

1969年株式会社フジテレビジョン入社。84年株式会社扶桑社へ出向。宣伝部にてPR活動。その後書籍編集部 編集長。

テレビ本・ラジオ本など、フジサンケイグループとの連動本を企画し、「アメリカインディアンの教え」「ビストロスマップ」などベストセラーを生み出す。また福田和子(松山ホステス殺害事件)自身による手記「涙の谷」を出版し話題となる。1994年雑誌CAZ編集長、1998年書籍編集部部長、上記を経て、同社執行役員、取締役、常務取締役などを歴任。2000年「チーズはどこに消えた？」を出版プロデュース。販売累計 370万部の大ヒット作となる。「新しい歴史教科書をつくる会」に同社代表として参加し、中学の歴史と公民の教科書全般に携わる。

人材会社株式会社サニーサイドアップキャリアの代表も務めている。



S44年フジテレビに入社。

当時の面接で聞かれる2つ

・女子25年定年制でも大丈夫ですか？

・学生運動に参加していたかどうか？

これが分かれ道になる時代だった

人が喜んでくれることが大好き。それが自分がうれしく感じる事ができた。
当時の女性の仕事は、お茶くみと雑用が普通だったとても好きな仕事だった。
ほとんどの方に合わせたお茶を入れる事ができた。濃さや温度など・・・

25歳の年に組合員のストライキで、女性の25歳定年制撤廃に

結婚して2人の子供を授かるも31歳で離婚・・・

S59年 フジテレビ系列の「扶桑社」の宣伝部に出向

H3年 いきなり編集長に！

全く本の編集の事はわからなかったが、上司にプロデューサーのようにやったらいいよと言われて
固定観念を外す役割・立場

流行っていたドラマを本にして大成功！ 当時はどこもしていなかった。

「もう誰も愛さない」 50万部

「インディアンの教え」 80万部

成功体験は自信につながる。 成功体験は成功体感が身につく。



雑誌の編集長「CAZ」キャズを通して、真のコミュニケーションの大切さがわかった。

仕事に大切なのは「好奇心」

その1

「チーズはどこに消えた」 400 万部

当時はやっていた経営本で、10 月ぐらいに上場企業の社長さんにプレゼントした。

年末年始の社長あいさつでのネタになった……

サラリーマンの方にブレイクしたのがきっかけ。

その2

福田和子の話

松山ホステス殺害事件で 15 年近い逃亡の末に逮捕された福田和子元受刑者の手記『涙の谷』です。この本を作る最初のきっかけは、逮捕のニュースを見て「こんなに長い間、いったいどこで何をしていたのか」「時効直前で捕まったのはなぜだろう」と疑問が次々に湧き上がってきたことでした。つてを頼って近い人に連絡をとるところから始め、拘置所に通い詰め、手紙のやりとりを重ねて手記の出版にこぎ着けました。ゼロからすべて 1 人で開拓したという点で忘れられない仕事です。

「私が必要だと思うこと」

気づく → 行動する → 成功体験 この繰り返しが必要

強くしてしなやかな軸を持つ。

竹のようにしなやかで強かったら、折れることはない。それぐらいしなやかな軸を持つと困難な状況であれどもそれを乗り越えられる。

DODA サイトから引用

働く女性へのメッセージ 平田静子

「経験のないこと、未知の事を不安に思うなら

なおさら飛び込んで経験してほしい！」

意欲も野心もなく社会人になった私ですが、「しっかり働かない」と思ったタイミングが人生で三度あります。最初は、フジテレビの女性の「25 歳定年制」が撤廃されて道が開けた時です。二度目は 31 歳で離婚し、私がこの子たちを育てるんだと決めた時。きちんと仕事をして子どもたちに恥じない給料をもらおうと思ったのです。そして三度目は、フジテレビから扶桑社に出向が決まった際に、いつも厳しかった上司に初めて「ここまでよく頑張ったな」と褒められた時です。そこでハッと気付いたのは、今までその上司が私に特に厳しく当たっていたのは、子どもを 2 人抱えながら男社会でこれからも働いていく私に覚悟をつけさせるためだったのだ、ということ。こんなふうに応援してくれる人もいるんだと勇気づけられ、その気持ちに応えたいと思いました。

仕事ほど人を成長させてくれるものはない、と振り返って改めて思います。仕事を通して出会う多くの人や出来事など、すべてが自分自身の血となり肉となり、人をどんどん大きく、深くしてくれます。学生時代は「仕事なんて別にしなくていいや」と思っていたのですが、いま大学生に向けて話す機会があれば必ず、「みなさん仕事は絶対に持ってくださいね」と伝えています。

出産・育児と仕事との両立に不安を抱えている女性たちにも、仕事はぜひ続けてほしいと思っています。仕事とは多くを学べる場であり、自らも日々成長し続けながら、子どもを育てていけるからです。女性がより働きやすい世の中にするた

めに、職場の環境やサポート、公的支援などがもっと整備される必要があるのも事実です。それとは別に、女性自身が自分の心の中の不安だけでブレーキをかけないことも大切だと思います。経験のないことに不安を感じるのは当然で、それを解消するには、飛び込んで実際に経験してみるしかありません。始めてみて本当に嫌だったら別の方法を探せばいいんです。「やったことがない」は、「やらない」ことの理由にはならない。これは私が著書に記し、自分自身にも常に言い聞かせてきた言葉です。もし不安の中に少しでも前向きな気持ちがあるのなら、自分の素直な思いや好奇心に従って、まずは飛び込んでみてほしいと思います。

懇親会



以上です。次は、沖縄ウッディでお会いしましょう！
ウッディ事務局 向井健介